

第4回学区制審議会会議録

■会議の日時：令和5年6月20日 14時から15時55分

■場所：瑞浪市総合文化センター 3階 講堂

■出席者：学区制審議会委員：

有賀秀雄、小倉弘次、安藤昇、渡邊悟、加藤博一、早瀬邦夫、
中村鈴彦、小木曾峻一、加藤博之、永井研、安藤裕子、
二瓶茂智、藤田瑞穂、水向裕樹、今瀧さをり、渡部国博、
薄井義彦、堀部なを、成瀬広之

欠席者：渡邊勝、河北卓也、加納礼爾、堀幸恵、黒沢実

事務局：伊藤慶和教育長、林恵治事務局長、

滝川直樹事務次長兼学校教育課長、兼松美昭教育総務課長、
堀田奈々学校教育課課長補佐兼教育支援係長、
山崎美和教育総務課課長補佐兼総務係長

■議事：

1. 教育長あいさつ

こんにちは。本日は、暑い中、またお忙しい中、第4回瑞浪市学区制審議会にご出席いただきまして、有り難うございます。

18日の日曜日に、瑞浪市の主張大会が文化センターの大ホールでありました。今年は、小中高それぞれ各校の代表が集まり、本当に見事なすばらしい主張をしてくれました。中学生の部の最優秀賞は、瑞浪中学校の端本彩乃さんで、『「もったいない」が未来を変える』という題名で主張してくれました。料理を残す自分に対して、おばあさんが食事のときに「もったいないで全部食べようよ」ってよく声をかけられるそうです。そういうことから、食品ロスということに興味関心を持って、取組を進めているということで、買物行ったときに賞味期限が近いものから取るようにしたり、飲食店で料理を食べ残したときには、容器に入れて持ち帰るなどの取組をしているそうです。最後に、「私1人に出来るのは、小さなことだけど、きっとその積み重ねが、未来を変えていくと信じて、食品ロスの問題に向き合い続けます」と主張して話を終えましたが、心に刺さってくる主張でして、自分自身も食品ロスということにもう少し目を向けなければと思いました。

瑞浪市の子どもたち、児童生徒は、それぞれの学校で、本当に見事に自信を持ち、力をつけてきています。まだ『教育のまち瑞浪』というところにまではいってないかもしれませんが、よりよい子どもたちの育ちを進め

ていきたいと思ひます。

昨年度この会では、小学校について審議をいただき、小学校の方向性についてまとめていただきました。後ほど事務局から説明があります。

今年度は、中学校に焦点を当て、今後の中学校、特に南中学校で、令和11年度から1クラス33名の単学級が1年生から出現するというこゝで、これからの中学校の在り方について、皆さんで審議をいただければと思ひます。

今年度が審議をまとめる年になりますので、どうぞ、様々な意見を出していただきながら、方向が定まっていゝと思ひております。どうぞよろしくお願ひいたします。

2. 会長あいさつ

こんにちは。暑い中、お忙しい中ご参集いただきまして、有り難うございます。

昨年度に続きまして、会長を務めることになりました加藤です。1年間よろしくお願ひいたします。

第4回の学区制審議会とありますが、令和5年度に関しては、第1回目ということで、年度変わりもあり、24名中9名の役員の皆さんが交代されました。

昨年度は主に、小学校についてご意見をいただいております。今年度は、中学校の問題に関して、皆さんの意見を伺いたたいと思ひます。

昨年の経過を含めまして、それを踏まえて、また活発な御意見をお願ひいたしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

事務局：

本日の会議は、委員24名中19名の出席で、開催要件を満たしていることをご報告します。

それでは、これより加藤会長に議事の進行をお願ひします。

3. 議事

議長：

議事に入る前に、瑞浪市の情報公開条例第23条の規定により、本日の審議会は公開となっていますので、本日傍聴希望者1名ありますので、これを許可します。以後議事の進行をしますので、活発な議論をよろしくお願ひします。それではレジュメの「(1) これまでの審議経過」について事務局からお願ひ

します。

(1) これまでの審議経過
事務局より説明。

議長：

有り難うございました。

これまでの経過の説明がありましたとおり、昨年度小学校の複式学級については、審議会としての方向性を出しております。新しい委員さんもおみえになりまして、分からないこともあるかと思っておりますので、ここで質問がありましたら受けたいと思いますが、よろしいでしょうか。

質問なし

議長：

特別ないようですので、今年度の議題となります中学校の単学級出現についてどうしていくのか皆さんにお伺いしながら方向性を出し、最終的に答申書をまとめていきたいと思っておりますので、その前提で、以降の説明をお聞きください。

(2) 校区別学年人口等について（令和5年度）
(3) 部活動の状況について
(4) 東濃5市における中学校別学級数の状況について
事務局より説明。

(5) 意見交換

議長：

有り難うございました。

ただいまの説明の中で、学園台を南中学校に通うようにしたらどうかという意見がアンケートや審議会の中であつたことに対して、実際変更した場合の具体的な数字が資料4にあるわけですが、実際の数字を見ますと、こうなってしまうのかと思います。また、部活動の各校の状況や東濃5市の中学校2クラスなど、いろんなデータが出てまいりました。

恵那市南部に関しては、中学校統合の方向に進んでおりますが、市の考え方と保護者の考え方にちょっと差異があるようなことも耳にしますが、やはり通学の時間の問題もあるかと思っております。ほかにも、恐らく中津川市のほうだと思

いますけど、1クラスが多くあるわけですが、このようなことを含めて、皆さんの質問やご意見を伺っていきたいと思います。

その前に資料3番で複式の説明がありましたが、新しい方は、複式のシステムは理解されておりますでしょうか。何か資料をお送りしていますか。1年生が含まれる場合は8人を超えたら複式にならず、それ以外の学年は合わせて15人以内で複式になることが国の規定で決まっていることや具体的な指導について理解していないと、この表だけを見て説明を受けただけでは誤解を招いた方もあるかと思しますので、よろしくお願ひします。

では、説明のありましたことに関して、ご意見、ご質問でも結構ですが、いかがでしょうか。

委員：

市P連本部役員会がありましたので、学区制の話をし少し皆さんにお話ししました。学園台に住まわれている方の意見としまして、隣に瑞浪中学校がある、もし南中学校になった場合、バス通学かということが主にありました。あと小学校が土岐小学校で、南中学校は学校が変わるので、それもどうなのかという話がありました。

議長：

はい、有り難うございます。

ただいま、南中学校に学園台の生徒さんも通ったらどうかということに関して、2点質問が出たわけですが、事務局いかがでしょうか。想定はされてないかもしれないので、具体的にこの場では即答出来ないかと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：

今、委員長がおっしゃったように、即答出来ないと思ひますし、学園台のことについては、審議会等のほうで、学園台を南中学校にという意見が出たことに対してシミュレーション的に出させていただきましたので、これはこうなっていることではなく、そういう一つの形があるということだけ示させていただいたもので、即答出来ません。申し訳ございません。

議長：

市P連の方では、学園台も南中学校へ行くということをし何か想定されたような中でのお話だったのですか。

委員：

副会長さんが学園台に住まわれており、その方の率直な意見ですけど、「通学路はどうなるのか、バスなのか。今は土岐小学校で南中学校になったらどうなのか。瑞浪中学校が隣なのに。」という話が会議の中で出ましたので、ここでお話しさせていただきました。

議長：

これはあくまで噂話ですが、学園台の方は、もう北中学校と土岐小学校へ通わせたいという方がほとんどというような話だったんですけど、実際に住んでいる方はそうばかりではないということですか。

委員：

中学校のお子様がおみえになる方のご意見でした。

議長：

はい、貴重なご意見有り難うございます。

この学区の見直しということは、教育委員会として、数字で想定したけど、結局は、令和13年度からは、また1学級になってしまうという、この数字なのですが、学園台の学区変更ということは、今後、考えていくべきことでしょうか。

事務局：

まず南中学校が、これから先、単学級になることについて、メリットもあり、デメリットもありますので、やはり単学級でもいいのではないかというご意見か、クラス数があった方がいいという意見が多いのかがはっきりしないと、学区の見直しについて踏み込めないと思いますので、メリット・デメリットを判断しながら考えていくことと思っております。

委員：

全員が全員右に倣えでなくても、選択肢があったほうが良いと思います。ご家族によっては、大勢のところでやりたい部活をやりたいという方もあれば、小さいところでのんびり育てたいという方もあり、ご家族の意思を尊重すべきであって、全員が全員になるというのは、行政側の考え方です。逆に言えば、今の南、北、瑞浪中学校の方でも、そういったアンケートをとって、全体的に考えることも、ある意味必要なのか個人的には思います。

議長：

ある程度、ちょうど境目にある学区は自由に選択出来るようにということですが、実際問題、現状の学区は、フリー学区ではないですので、自由にはいかないと思いますが、その辺の説明を事務局お願いいたします。

事務局：

現在は、学区の決まりがありますのでそれに沿いながら、住んでいる場所によって学校を決めています。学区を選択する等についても、これからの審議の中で、また検討していくことかと思っておりますけれども、現状は、居住地で決められた学校に行くことになっています。

委員：

学区だからということじゃなくて、本当にそのご家族の希望がどうなのかということを考えて、瑞浪全体でどうするかという流れにしないと、本当に行政ありきの、ここは人数が少ないから増やそうというような流れになってしまうのではないか。

学校を考えて、全体のところを考えてあげたらと、個人的には思います。

議長：

学区制審議会ということで、学区の問題もありますが、当面の課題として南中学校の1学年1学級問題をどうするかということで、会議を進めるほうも検討していたわけですが、学園台の学区変更ということは、今回のこの学区制審議会でも検討に入れる余地があるのかなのか、見解をお願いしたいと思えます。

事務局：

提案させていただいた資料としましては、やはり今回、仮に学園台を変更してもすぐにまた単学級になってしまうのではないかという資料になりますので、それによって、単学級が解消される見込みが薄いということになるかと思えます。

議長：

資料4番に関してはですね、たとえ編入したとしても、令和12年以降はもう、結局は単学級になってしまうという、参考までの数字を事務局が示したということで、今回の学区制審議会の課題として、学園台の学区変更は、とりあえず入れ込まないという方向でよろしいでしょうか。

事務局：

学園台という特定の地区でありましたけど、そこだけを含めて考えないということをお願いしたいと思っています。

議長：

今回の学区制審議会では、取り入れないということですけど、学区制審議会というのは、今後もまた問題が出てくれば審議会を立ち上げて、いろいろ検討していく会議ですので、また今後、問題点も出てくることもあるかと思imasので、そのときに、また、学区変更などを議論するということで、今回はとりあえず、南中学校の1学級問題のみに絞っていくということでいかがでしょうか。

委員了承

議長：

ではそのほか御意見は。御質問でも結構ですけど。

委員：

学園台をここで事務局が出してきたのは、ただ近いからとか、どっかから声が上がったとではないですか。

事務局：

アンケートの回答の中でもそういうご意見もありましたし、これまでの令和4年度中のこの会議の中でもご意見もいただいたので、それに対して実際どう本当にそうしたらどうなるかを単純に推計したものです。

アンケートで回答がございましたので、それを検証した資料で、教育委員会の案でございませんので、ご理解いただければと思います。

委員：

そうすると、まだこれから審議なので全然関係ないですが、いきなり統合というのは感情的にはやはり、学園台でいうと土岐小の6年間でいっぱいできた友達と別れて南中学へ代わるというのもある程度考えて審議いただいたほうがいいと思います。

事務局：

はい、有り難うございます。

6年間小学校で一緒に暮らしたことは、今後のこともありますのでそこが1番大事だと思いますので、そこは十分に配慮しないとイケないと思っています。

私も学園台に住んでおりまして、平成10年頃だったと思いますが、学園台は、小学校は土岐学校のままで瑞浪中学校か、当時、瑞陵中学校でしたが、どちらがいいかを聞かれたことがありました。そのときの親御さんの意見は、子どもたちを、同級生から別れさせたくないから、遠くても瑞陵中学校がいいと選択をしていましたので、やっぱりそういった気持ちは十分、しっかりと配慮してまいります。

議長：

確認ですが、先ほど学園台に住んでいる方が、南中学校へ行くことについておっしゃったのは、あくまで個人的なご意見か学園台の方たちの意見ですか。

委員：

あくまで個人的です。

議長：

学園台全ての方が、そのようなお考えではないということで、当然いろんな、個人的に、数が少ないから南中学校にいったほうがいいという家庭もあれば、今までどおりのほうがいいという家庭もあり、大方は多分今の土岐小学校、北中学校ということだと思いますが、その辺も頭の片隅には置いて、今後の学区制に関しても、検討に値することかなと思いますので、事務局のほうが覚えておいてほしいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員：

小学校についての審議のときは、複式になるから統合がいいのか、それとも複式にして今の7校体制をしていくのかというような議論で方向性が出ました。小学校の学区の審議をしたときに複式のメリットとデメリットの説明をしていただいた記憶あります。南中学校の場合ですと、1年1クラス。今度は南中学校が単学級になったときにどういうメリットとデメリットがあるのか、学校の運営体制として、先生方の配置も小学校と中学校では違いますので、専門の科目毎の先生となるので、その辺の体制づくりにも問題があるのかどうかを次回で結構ですので、一度整理して、お示しいただければ大変審議しやすいかなと思いますので、これはお願いです。

議長：

9名の新任の方に今までの資料は送付されていますか。

事務局：

送付しています。

議長：

第2回の資料1-1に、瑞浪市立小中学校区の見直しについて、表面に小学校の複式になった場合ということが書いてありますし、裏面に中学校の単学級出現の見通しとして、中学校1学年単学級の場合のメリットとデメリット、教員の配当事情ということで具体的な数字が出ています。

今の質問に対して事務局の補足説明をお願いしたいと思います。

事務局：

中学校ですので、教科担任で授業を進めていきます。教員数が少なくなると、教科で教える人がなくなる可能性があります。例えば、常勤の講師で、教科の授業だけ教える職員を配置したり、兼務をかけながら2つの学校で、教科の授業をやるような体制をつくりながら、教科等の学習について漏れがないようには十分配慮していきますので、ご心配はないと考えております。

議長：

この資料に単学級になった場合のデメリットが10項目ぐらい羅列されていますが、1番大きなデメリットとなると思われること、特に強調されたいことは何かありますか。

事務局：

特にというわけではないですが、学級が一つしかないということで、クラス対抗で何か取り組む等での競争意識や切磋琢磨するという部分は弱くなる可能性があります。その辺りも縦割りの活動を生かしながらするような場をつくることは可能かと思っています。

また、ICTも今進んできていますので、他校とつないで、何か出来ることもあるかと考えますので、いろいろと解決する方策について考えたいと思っています。

委員：

資料を配布いただいていたのですが、認知していない方もありますし、アンケートもしていただいて、その対象の学区の方々がどういう考えを持ってみえるのか、中学生もかなり自分なりの考え方をしっかり持ってみえると思いますので意見を尊重していただきたいと思います。それにはもう少し、資料を皆さんに周知していただいて、考えを問いかけていただくのは大事だと思いますので、よろしくをお願いします。

議長：

ご意見有り難うございます。

例えば、資料に中学校が単学級になった場合のメリットとデメリットや教員数が書いてありますが、もっとこういうことが知りたいとか、実際に中学校が単学級になった場合の具体例が知りたいとか、何かその辺皆さん今後検討していくに際して、今日提示していただいた資料だけで十分か、もっとこういうことが知りたいというご意見はありますか。

委員：

学級編成とは直接結びつかないかもしれませんが、少子化が進んでいる関係で、部活の説明がありました。もう20年前に中学校単位での地域クラブ活動化がとねえられたわけですが、実際それはそう進んでないのと、非常に地域が広がってきて難しいと思います。

もう一つコミュニティ・スクールとの関係で、外部者の協力体制を構築するというような方向性というのもあるかと思いますが、今後の見通しとまではいえないかもしれませんが、方向性のようなものをお考えであれば教えていただけたらと思います。

事務局：

有り難うございます。

コミュニティ・スクールのほうで補える部分はあると思います。今年度、瑞浪南中学校でコミュニティ・スクールが立ち上がることになり、来年度に向けて立ち上げ準備しておりますので、来年度からは全ての小中学校でコミュニティ・スクールがスタートします。やはり地域の方の力も借りながら、地域の子どもたちをよりよく育てていくことをしたいと思っていますので、教員が出来ない部分についてサポートしてもらったり、協力して子どもを育てるといことは大事にしていきたいと思っていますので、2つ意見を参考にさせていただきます。

議長：

最初の質問の、例えば部活のクラブ化についての今後の見通しはいかがでしょうか。

事務局：

部活動からクラブになるということで、岐阜県では、令和5・6・7年と3年間かけて、特に休日の部活動をクラブに移行するということを決めております。実際今、瑞浪市の中学校で、休日、土日は、保護者クラブが中心となっていますので、その保護者クラブと地域クラブのほうを出来るように今算段しているところです。

現在、部活動の加入も自由化になりまして、無所属の子たちも何人か出てきております。実際、全員が部活動に入らないといけないという時代から、自分がやりたいクラブに参加するなど、かなり世の中の情勢も変わっていますので、これから3年かけながら移行を進めたいと考えています。

委員：

資料5部活動の資料がありますように、部活動の選択可能性、自由化ということになっていまして、部活に加入しない生徒も出てきています。例えばサッカーをやっている生徒は早く帰って練習に行く、他に習い事としてダンスをしているというような、やりたい部活がない、自分が本当に熱を入れているものが他にあるので、無所属という形で抜けているというお子さんが多い状況になっていると思います。それぞれの事情で、所属されてない方もます。その中で、更に部活には入っているけど、中体連の試合には参加をしないお子さんも多数います。

議長：

参考意見、有り難うございます。

昔は、部活に全員加入で、どこかの部活に所属するということでしたが、今は自由で瑞浪中学校ですと19名無所属者がみえるわけですが、今後そういう生徒も増えてくる可能性があるということです。

そういった中で、今後の部活動を考えるに当たって、ほとんどの部活動がクラブ化ということになっていくわけです。

委員：

部活の地域移行は、休日を最初中心に進めてみえると思いますが、部活の一覧表を見ていただいても分かりますように、現状として、単独、一校で、部活

動に必要な人数、試合に参加するのに必要な人数を集めるのが難しくなっています。これはあくまでも部員の数ですので、この中で更に試合に出たいという子はもっと減ってきます。野球ですと、瑞浪中学ですと単独で9名集まりません。ソフトボールですと、瑞浪市内の中学校だけでも数が足りないのです、土岐市と合同になっているというような状況です。今、土日を中心に進めています、今後は、平日のクラブも含めて、幾つかの学校が一緒になっていく方向で進むのではないかなと予想しています。

事務局：

今、委員が言われたように徐々に進んでいくことになると思います。今、実際このような部活動があります。また、地域で独自のクラブが出来るかもしれませんが。その辺りも話し合いを進めながら、新しい形をつくっていく3年間だと考えます。

委員：

有り難うございました。

最初に言いましたのは地域のスポーツクラブ化というのは、国策ですので、国がどういう方向をこれから示していくかによって、左右されるってことがあるかと思っています。ただそのためには、地域で指導者の方が、生活出来る状況がつくられるかどうかによっても、指導者の確保の問題が伴ってくるので、なかなか簡単にはいかないことです。

国が目指して、中学校区で一つの、スポーツクラブと言ったのは、ヨーロッパ型のクラブ活動的なものをイメージしていると思います。例えば、サッカーが好きな子は、学校の授業終わったらサッカークラブへ行ってやる、野球の好きな子が野球の、音楽とかが好きな子はそういうほうへ行くということで、学校の中で全てを完結しようとしてきた従来の計画体制から、少しずつ変えていこうとしているのかと勝手に思っています。だから、まだまだ時間がかかる内容だと思いながら、大変なご苦労だと思いますが、少しでも方向性が見えればと思います。

議長：

有り難うございました。

ただいま説明ありましたように、部活動に関しても、資料の南中学校を見ると、現在、かなり少ない人数で行っていますが、今後もっと少なくなってくる場合、単独での部活が実際運営上無理なので、他校と合同といった方向に進んでいくという予想が立ちますね。例えば南中学校がどこかに統合したとして

も、今後、全般的な傾向としてクラブ化は進んでいく方向だと思いますので、その辺に関して、デメリットの中で部活の選択の幅が狭まりやすいということはありませんが、クラブ化によって解消されるかもしれないということですね。

その他、ご質問等ありますか。

委員：

単学級については、仕方ないと思います。子どもが減っていて、単学級になってしまったら、デメリットをあげられましたが、親としては受け入れざるをえない。2学級が1学級になることが、そこまで大きなデメリットなのか疑問に思っています。

出していただいた学園台のデータは、今後学園台を、南中学校に通えるようにした場合もあまり変わらないというデータとのことでしたが、もっとそこを本気で考えたほうが良いと思っています。データを見る限り、北中学校は3学級4学級だが、南中学校はもう1学級になるので、北中学校に行く子を南中学校に行ってもらったほうが地理的にも近いこともあり、良いと思います。ただ土岐小学校の方が多いいということでしたので、学園台だけ学校を選べるようにすることは出来ないのですか。実際に今数名、学園台の端の家ですが学園台から南中学校に通っている方がいるはずですので、多分何か方法があると思います。

ただそれは結構ハードルが高くて、なかなか大勢いないだけであり、小学校に入る時点で、土岐小学校より稲津小学校のほうが近いから、どっちでも行っていい選択制にして、稲津小学校でもいいという選択肢を与えてあげることは出来ませんか。

学園台の資料で、学園台の人数を加えても効果がないとのことでしたが、学園台は、瑞浪の中で1番その人口が増えるポテンシャルだと思います。今国が少子化対策でお金をかけると言っており、結婚しているがお金がないから子どもを産まない人に対してサポートしていくという政策じゃないですか。ということは、この瑞浪出身で例えば土岐市、多治見市に住んだけど、そういう政策があるから、学園台に戻って家を建てるなどの可能性がとてもある町だと思います。

この表は多分そのような潜在化された数字は織り込んでないと思うので、含めて、学園台の学区を市には考えてほしいなと思います。

委員：

最初に検討しなければいけないことは、単学級の学校でいいのかどうかということだと思います。単学級の学校が悪いことばかりではない、デメリットも

あるし、メリットもあることでお話いただいたので、単学級でなくすとなったときに、学区を見直すか、自由化をするとかということを考えていけばいいと思います。単学級にはこんないいこともあるし、こんなふうに補っていける、部活もこういうふうになっていく、先生たちも非常勤講師さん等で補うことが出来るっていったときに、本当に単学級このままでいいのかを考え、なくすってなったときに、学区の検討が必要になってくると思います。

事務局：

学園台は、地域で検討されたときに、土岐小学校に行っているなら、中学校はやっぱり同じところに行きたいっていうふうに、地域住民の方が決めて、近い瑞浪中学校ではなく、バスを使ってでも瑞陵中学校に行くこと決められたわけで、地域の方も子どもたちも前のままであれば、そういう意向が強いと思いますので、なかなかそれは難しい問題かと思えます。学園台だけを見直すということではなくなってくると思えます。

議長：

学区制審議会は、その都度問題点が出れば考えていくということで、平成15年に、第1回の学区制審議会というのは、お互いがこの瑞浪市街をすれ違って、水の木の子が瑞浪中学校、学園の子が瑞陵中学校にと変な学区割でしたので、それをどうするかというのが問題でした。第2回は中学校の人数がだんだん減り、統合をどうするかという問題で、南中学校、北中学校が発足したという経緯があります。今の学園台の問題は、単純に学園台の子を何とか説得して、南中学校行かせるだけでは済まない、もう少し瑞浪全体の学区というものを考えなければ、なかなか難しい問題があるということです。

距離で見た場合、学園台から稲津小学校と南中学校のほうが近いのか、土岐小学校と北中学校のほうが近いのかどちらですか。同じぐらいのようなイメージがあるありますが、その辺も含めて、今後考えていくべき問題かと思えますがいかがでしょうか。

委員：

距離は分かりませんが、感覚的には稲津小学校のほうが近いと思います。

土岐小学校に通っている子を無理やり南中学校へというのは、子どもの気持ちを考えたら絶対駄目だと思います。娘がちょうど稲津中学校と陶中学校が合併したときの1期生で、その時、陶の子は合併だけど稲津に行くような形になり、親も子どもも大分苦労して、今も、稲津の子も陶の子もですが、違う環境に慣れず、学校行けない子が数名いて、それでも僕は合併してよかったと思え

るようになりませんが、そう思えるまで親も子も時間がかかっています。そういうことはよくないなと思っているので、土岐小学校の子を南中学校に行かせることには絶対反対です。やるなら小学校からという考えです。時間がかかるということが分かりました。

議長：

有り難うございます。

南中学校統合のときに、陶中学校と稲津中学校の統合ですので、それぞれの保護者の方、あるいは地域の方の意見がたくさんあって、統合準備委員会を20回ぐらい開かれたと思います。北中学校も同じようにあったかと思いますが、そういった中で、統合というのは、子どもたちにとっては非常に大きな負担というか、心の問題もあるなど、今まで慣れ親しんだが友達と分かれていくなど、この会議で3・4回審議して結論を出すのは非常に難しい、微妙な問題だと思います。学園台の問題も、学区全体を見直すというときに、真剣に考えていくべき課題かと思っています。

今後、この会議が3・4回位あるわけですが、それに関しては、単学級、例えば南中学校、単学級になった場合、生徒たちの状況がどうかや保護者の方がどうかという、単学級問題を中心に考えていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局のほうで何か、ご意見はありますか。

事務局：

本当に様々な視点でご意見をいただいて、今後のことも考えながら進めていかなければいけないと思いましたが、今、会長が言われたように、この審議会でも討議していただくのは、南中学校について、令和11年度から単学級のまま進めていっていいのか、そうでないのかというところに、焦点を当てていただいて、また次回にもつながると思いますが、ご意見をいただければ結構と思います。ずっと単学級のままというわけにはいかないことも考えられますので、また時期的なことも踏まえて、様々なご意見がいただければありがたいと思います。まずは、単学級でしばらくの間いいかどうかについてご審議いただければと思っています。

議長：

有り難うございます。

中学校の1学級の学級編成は、35名か40名かどのようなようですか。

事務局：

岐阜県は35名でやっておりますので、36人になると2クラスになります。

議長：

中学校が単学級になった場合に関して、何かもっとうろことが知りたいとか、東濃で単学級の学校が10数校あったわけですが、そういったところの現状の問題はどうかとか、そういう何か必要な情報というのはありませんか。小学校の複式学級に関する討議をしたときも、川上小学校の授業の様子をビデオにさせていただいたり、校長先生のお話を伺ったりして、これなら、複式でも、大丈夫じゃないかという、一つ安心感があって、今後小学校3校は複式で、今まで行くという結論出たわけですが、そういった情報を見たり聞いたりすると、中学校の単学級問題もよく理解出来ると思いますが、何か事務局資料として準備出来るようなものが可能ですか。

事務局：

複式学級ですと、随分授業の行い方に特徴がありますが、単学級だと普通授業をしているだけになってしまいますので、授業場面だけでは、違いが分からないかと思っておりますので、難しいかなと考えます。

議長：

先ほど、学級数が3学級になってしまったら、教員7名ということで、専門の先生もみえないけど、その辺は大丈夫だろうというお話もありましたが、実際問題として、市のほうで非常勤の講師をお願いする等、具体的に、3学級になった場合大丈夫という、その根拠といいますか、状況を教えていただければありがたいと思います。

事務局

中学校は教科担任で授業を進めていますので、各教科の専門の先生の授業が望まれるところです。そのために学校の普通の本務の職員で足りないところについては、非常勤講師という形で、教科を専門にやる職員を県の予算をつけてもらうとか、兼務といって、例えば瑞浪中学校に勤務している先生が、その教科だけを南中学校でやるというような形で、その先生の専門性を生かしながら、複数の学校を勤めてもらうようなことを考えております。現在実際に、兼務で小学校の先生に中学校技術科を教えてもらっています。

委員：

上の子が南中学校に通うときに2年目で行ったのですが、子どもも、私たちが親もですが、アウェイ感がすごくて、先生とも今までだったら親しくできていたけれど、そこまで親しくなれないなど、一つ離れたところからの中学生活がスタートしたというのがありまして、正直いい思い出がないというか、その部分を実際感じました。

下の子が来年中学生に上がりますが、普通なら各教科、先生がそれぞれ担当教科を持って授業を受けられるのですが、先生の数も少なくなったことで、なかなか担当の教科の先生がいないときに質問等しにくいのかなとか、すこし違ってくると思うので、実際子どもたちからしてみれば、頼りになるのは先生になると思うので、その辺が心配です。

議長：

例えば、瑞浪中学校から兼任の教師の方が授業に行かれて、また、すぐ帰られてしまうときに、その授業の質問なり、後でのコミュニケーション等が取りにくいというようなご指摘もあったのですが、その辺は何かあります。

事務局：

勤務の仕方として、例えば何曜日はどここの学校、何曜日はどここの学校など、とすることによって、その日は一日その学校にいるとなると、質問する機会も増えますし、タブレット等でやりとりすることも可能になると思いますので、活用しながら、お子さんが疑問に感じたり、分からなくなったときに答えてもらえるような状況をつくるようにしていきたいと考えています。

議長：

中学校でも統合となると、生徒さん、子どもたちにとっては大きな問題があったわけですね。

委員：

小学校の時に稲津小学校と陶小学校で学年ごとに何回か交流の場をつくっていただいたのですが、大体喧嘩して終わったという話しかありませんでした。お互いそれぞれ自分の学校で交流すると気持ちが大きくなって何かトラブルになってしまう、全部の学年がそうじゃなかったのですが、特に問題があった学年だったかもしれませんが、ちょっと壁があったので、中学校からではなく、小さいうちからだとすぐお友達になれたりするので、もう少し小さいうちから一緒にいるのだったら、その方がいいと思います。

議長：

有り難うございます。

実は私も当時の南中学校の統合準備委員会の一員だったのですが、会議を重ねて、統合が良いのではないかという方向で進んで、実際統合してみたら、いわゆる統合効果といいますか、稲津の子も陶の子もお互い切磋琢磨して、いい雰囲気が出来たということの後で聞いたのですが、それは一部であって、見えない部分で、いろいろ子どもたちの葛藤があったというわけですね。

そうすると、今度、南中学校単学級でなく、仮にどこかと統合した場合、もっと大変ですよ。例えば陶の場合、陶から瑞浪中学校または北中学校へ通学ということになると、もっといろんな問題が出て、いい出会いもあれば、よくない出会いもあったりして、今までの地域性も違うし、幼稚園が含まれば9年間ぐらい一緒にいた子が、突然大勢の中に飛び込んで、非常に葛藤するというような場面も想像出来てしまいますが、それを踏まえて単学級がいいか、統合がいいかということは今後考えていくべきですかね。

委員：

実際悪いことはもちろんあったけど、いいことももちろんありました。陶は特に幼稚園から小学校6年生まで同じメンバーでずっと1クラスできていて、中学校で2クラスになっていくっていう形なので、小さい頃から9年間はずごく重要な時期をずっと一緒に過ごしてきたっていうこともあって、中学生になってよその地域と一緒に中学校になったっていうことで、やっぱり子供たちもいろいろとあると思いますので、その辺もいろいろ考えていただいて、検討していただければと思います。

委員：

コミュニティ・スクールをやるときに、稲津地区と陶地区が一緒になっているような行事や、いろんなものに関わってくるわけですが、その中で、稲津と陶の関係性がうまくいかないと、コミュニティ・スクールがうまく回っていかないということもありまして、学園台が更に入るような話になりますとまた、3者が、コミュニティ・スクールの関わりになってくるというようなこともありますので、今でも、陶と稲津でどのようにしていこうということで、先日も、青少年育成の表彰式の関係もあり、稲津青少年なので稲津だけ表彰するかというような意見もありましたが、そんなことは出来ず、陶の子も含めて南中学校の生徒ということで表彰しましょうというようなことで流れをつくったようなことで、いろいろこれからコミュニティ・スクール関係で地区とのかかわりが大変多くなってくると思いますので、その辺のところを検討しながら、地区と

しては、やっていかなければと感じ、できれば今の状態で進んでいければありがたいと思っています。

議長：

有り難うございました。

稲津地区にとって学園台というのは、あくまで瑞浪地区という意識ですか。

委員：

意識的にはそうです。

先ほど学園台の子が南中学校に通ってみえる方もあるという話がありましたが、学園台の地区ではなく、ちょうど境になっていますので、地区的には稲津地区の子が通っているはずですよ。

委員：

昨年一度、お話を伺う機会がありましたので、多少のお話を聞いていたのですが、実際こうして数字にしてみると、非常に判断が難しい状況だなというのは感じています。

親の立場から見ると行政とか教育機関として見るのでは、かなり意見が違ってくるのではあるのですが、個人としては、このまま人口減少が進んでいくということがどうしても見えてしまうところですので、どこかのタイミングでもう一度統合するというような形になってしまうという印象はもっておりますが、これは感想であって意見ではありません。

委員：

小学校の複式学級の件で、ちょうど最初になる年の親です。話を聞くまでは複式についてあまり分かっていなかったのですが、説明していただいて、実際に複式授業をしている学校の校長先生のお話を聞いて、更に教育委員会の方が地域に来ていただいてお話をいただいて、ようやく少し理解が出来るようになってきたというのが正直なところですよ。親さんの不安が大分改善されたかなと思いますよ、まだ始まっていないので不安を解消し切れてないのが現状だと思うので問題はまたそれから出てくるかもしれません。

その先に中学校の単学年が同じ子どもたちで始まるということがあるんで、なかなかちょっと難しく、親としては、頭の中が整理しきれないというのが正直なところですよ。不安をちょっとでも早い段階から解消が出来るように、何か資料があったらいただいて説明いただくことで、多少なりとも不安は減っていくと思います。

単学級は、メリットとデメリットがたくさんあるので、ほかの学校で単学級の子どもの声が聞けたり、よその中学校では単学級でも10人でも活動を今していますとか、人数がここまで来たからちょっと単学級は厳しい、統合の話が進みますといったラインが分かってくると当事者とか親の立場からすると、すこし不安が解消されるのかなと思います。

心の準備、子どもも含め親もやっぱりいろんな準備、送り迎え等いろんなことがあります。幼稚園のほうでも話をすると男親目線と母親目線で意見も違ったりします。お母さんたちからすると、送り迎えは基本母親の方がされているので、これを見てからいくと離れたところとなると大変という意見を聞いて、それまではそんな頭もなかったのに、それを聞いてなるほどと思ったりすることもありました。親からしたらもう少し資料か何かいただけたら、不安が解消されると思います。

議長：

有り難うございました。

中学校を単学級でいくか統合かという話なのですが、統合となると陶地区は、かなり遠いところへ通学しなければいけないということになりますが、どうですか。陶中学校も過去に統合して南中学校になったわけですが、その後さらにまたどこかへ統合なんていうことを現状では考えられないようなことでしょうか。

委員：

ご家族の意見が大事であって、私が個人的に意見することではないというふうに思っています。

議長：

町のことも考えなければいけないという立場で、もし南中学校がなくなってさらにまた遠いところということになると、陶町がよりまた疲弊するのではないかというお考えはお持ちではないですか。

委員：

小学校と中学校は違い、小学校では地元に着きたいと思います。

すこし遠くなるかということで、今も稲津にあること自体が地元ではないという感覚を持ちますが、個人的な意見です。

議長：

皆さんの意見は、保護者のかたのアンケートをとったり、ご意見を伺ったりして、実際の当事者の意見を参考に今後も考えたいというようなことだと思います。今後の予定として、アンケート等の計画をされていますか。

事務局：

教育委員会が説明をして少し不安が解消されたという意見もいただきましたので、メリットとデメリットももう一度説明しながら、不安が解消出来るのであれば、教育委員会でまた説明に伺うなどしていきたいと思ひ、検討したいと思ひます。

議長：

それは次回の学区制審議会までにするのか、どういうスケジュールでお考えでしょうか。

事務局：

今回の審議会までには、アンケートなり説明会を開く等をして、不安を解消するようにしたいと思ひます。9月頃までにはそういった形で、説明会等を行う等、不安の解消に向けた取組を検討したいと思ひます。

議長：

資料的なものがあると少し安心感や理解出来るということでしたが、新任委員さんに関しましては、今まで経緯や分からないところ、単学級に関してのメリットとデメリットをもう少し具体的に補足が欲しい等ということはありませんか。

委員：

今の中学校の単学級の話は5・6年先ですが、行政側で何か手を打たなければいけないと思ひます。第7次総合計画で人口増の対策等が本当に反映されてくると、これがもっと遅れてくる可能性があります。単純に今の状態で、陶地区の区長会長さんも稲津地区の区長会長さんもいるので、まちづくりというか人増やしについて、解決策を考えていくべきだと思ひます。市のほうもそういう策を示していただきたいと思ひます。何もしないと大湫のように小学校がなくなり、釜戸から中学校がなくなるというようなことになってしまうので、なるべくそういうことをしないでいただきたいと思ひます。

事務局：

ご意見有難うございました。

市としましても、第7次総合計画の中で、この会議の中でも人が増えれば問題解消になるのではないかという意見もございましたので、市としても移住定住ということで、しっかりと取り組んでいく問題で、第7次総合計画の中で位置づけていくと思いますので、しっかりと移住定住も含めて考えていきたいと思います。市としても、そういった制度もありますので、よろしく願いいたします。

議長：

稲津地区に関しても新築の住宅がどんどん建って、人口が増えているのかと思ったら意外とそうではなく、人口はすこし減って、それが南中学校の生徒数の減少につながっていると思うのですが、なかなか移住定住を市のほうももちろん考えてもらわないといけませんし、地区もまちづくりと連携する等して、稲津地区としてどうしようということはもちろん考えられていると思いますが、ここで一気に5人、10人増えるということは、どの地区も同じで難しいと思うのですが、どうですか。

委員：

人口増加は今のところの望めないかなあというのが現実です。

住宅がかなり、いろんなところで宅地がどんどん出来ていますが、稲津から稲津に移ってみるだけですので人数的にはそんなに多くはないと思います。

麗澤中学校もありますので、麗澤中学校も保護者の方は視野に入れていていると思いますので、麗澤中学校へ通う方もかなりいると思います。

陶の方が、稲津で住宅を建てられるというようなことをたくさん聞いていますので、南中学校として生徒数が増えるということは、今のところはないと思います。

まちづくりとしては、定住をしてもらえるような環境づくりに今取り組んでいますので、その成果があらわれるとありがたいなというふうには思っています。

議長：

当初示していただいた生徒数の予測に関して、大幅に増えることは、今後、なさそうというご意見でした。

委員：

私は、瑞浪市の第7次総合計画の委員をしていますので、いろんな話を聞き

ながら計画を検討しています。直接、今日の複式にするかどうかという話とは違う話になってしまうかもしれませんが、とんでもない話になってます。瑞浪市 20 年前は 4 万 2000 人いました。今は 3 万 8000 人そして 20 年後は 2 万 6000 人から 2 万 7000 人になっています。こうなってくると地方自治法が考えても、2 万人に近づいてくると瑞浪市の存在が危なくなってきました。今、第 7 次総合計画でいろいろなことを考える中で、みんな最終的には、人口減の問題があらゆるところで関係しています。この学校区もそうです。ほかの消防団の問題、それから医療の問題、自治会の問題、みんなそうです。瑞浪市全体がもう消滅の危機となっています。私たちも第 7 次総合計画で、特殊出生率が 2 に達すれば、今の人口維持出来るのではないかというようなことをうたっています。ところが日本を見た場合、特殊出生率は上がった時期においても、人口はどんどん下がっています。どう考えても瑞浪市は非常に厳しい状態になっています。あくまで個人的な話ですけど、中学校 2 校です。小学校もせいぜい 3 校になるしか生きる道は多分ないと思います。

資料読まさせていただいて、メリットとデメリットがありますが、メリットの中にデメリットがあり、デメリットの中にメリットがあると思っています。

たまたま明世地区は人がいっぱい、全くこういうことに無頓着でこのうとしていましたが、ここにきて本当深刻になりました。こういう非常に厳しい状態で、私としては、第 7 次総合計画で困っています。

議長：

第 7 次総合計画の委員さんからの貴重な意見有り難うございました。

またこの先、新たな学区の問題が出て、学区制審議会がまた数年後には開かなければいけないような状況になるかもしれないという危機感あり、そういう大きな問題もありますが、当面は、南中学校単学級がどうかということで、今後、の会議で進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

これをもちまして第 4 回の瑞浪市学区制審議会の議事を終了いたします。

事務局：

有り難うございました。それでは 4 番のその他ということで、皆様から何かご意見ございましたら、いただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。

次回の会議の予定ですが、保護者、当事者の説明、それからそういった資料というところもありまして次回 8 月ぐらいと思っておりましたが、その辺のスケジュールも検討しつつで、日程に関しましては、別途調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

では、これもちまして、第4回瑞浪市学区制審議会を閉会とさせていただきます。本日は有り難うございました。